

大阪城 天守閣の詳細説明

○名	称	大阪城天守閣
○所	在 地	大阪府大阪市中央区大阪城
○所	有 者	大阪市

（１）大阪城天守閣の概要

大阪市中央区に所在する大阪城天守閣は、特別史跡「大坂城跡」の本丸中央やや北寄りに建つ、昭和 6 年（1931）竣工の復興天守です。高さ 13.3 メートルの天守台石垣の上に南面して建ち、石垣上からの高さは 39.4 メートル、石垣を含めた総高は 52.7 メートルです。

建物は鉄骨鉄筋コンクリート造、外観 5 重、内部 8 階で、屋根は本瓦の形を表した銅板葺です。白を基調とした下層部と、黒地に金色の装飾を施した最上層の対比が鮮やかで、鯨、破風の鋳金具、鶴の金時絵、箔押の虎の銅板レリーフなどを飾り、華やかな外観を作り出しています。

大阪城の天守は、豊臣期と徳川期にそれぞれ築されましたが、豊臣期の天守は慶長 20 年（1615）の「大坂夏の陣」、徳川期の天守は寛文 5 年（1665）の落雷によって焼失しました。

現在の大阪城天守閣は、豊臣期の天守の姿を、恒久性のために鉄骨鉄筋コンクリート造によって表現した建物です。

（２）市民の寄付による天守閣復興

大阪城天守閣の復興のきっかけは、大正 14 年（1925）の「大大阪記念博覧会」です。天守台上に仮設された展示施設「豊公館」が好評を博し、恒久的な天守閣復興への機運が高まりました。

昭和 3 年（1928）、大阪市長の關一は、大阪城本丸の公園化と天守閣復興を発表しました。事業費は市民の寄付によって賄われ、集まった 150 万円のうち、47 万円が天守閣の建設に充てられました。

設計は大阪市土木部建築課らが担当し、武田五一や天沼俊一らによる建築の専門的な助言を受けて進められました。昭和 5 年（1930）に着工、翌 6 年 10 月に完成し、以降、長年にわたり大阪の象徴、郷土の歴史を伝える博物館及び展望台として親しまれてきました。

（３）大阪城天守閣の価値について

大阪城天守閣は、昭和前期の研究と考証に基づき、豊臣期の天守の姿を鉄骨鉄筋コンクリート造で表現した戦前期の復興天守です。

設計では、「大坂夏の陣図屏風」や全国各地の天守などを参考に、外観 5 重・内部 8 階の構成が採用されました。均整の取れた外観に多数の破風を配し、最上重を黒色と金色で華やかに飾るなど、優れた意匠を備えています。一方、構造には耐震性・耐火性に優れた鉄骨鉄筋コンクリート

造を採用し、歴史的な外観と近代建築技術を融合させています。

昭和 20 年（1945）の空襲を免れ、戦後も郷土資料館及び展望台として活用されてきました。市民の寄付によって実現した経緯は、近代大阪の都市文化と市民意識を象徴するものであり、戦後各地で進められた天守再建の先駆けとしても、高い歴史的・建築的価値を有しています。

（用語解説）

○特別史跡

文化財保護法に基づく史跡のうち、特に価値が高いものです。「大坂城跡」は昭和 28 年に史跡、昭和 30 年に特別史跡に指定されています。

○鉄骨鉄筋コンクリート造

鉄骨の周囲に鉄筋を組み、コンクリートで固める構造です。鉄骨造と鉄筋コンクリート造の長所をあわせ持ち、耐震性、耐火性に優れています。

○關一

第 7 代目の大阪市長で、御堂筋の拡幅や地下鉄の整備を中心とする「都市大改造計画」を推進した人物です。

○武田五一

西欧のアール・ヌーヴォーなどの新しい意匠を日本に紹介し、多くの近代建築を手がけた建築家です。京都帝国大学建築学科の創設や後進の育成にも尽力し、「関西建築界の父」と称されています。

○天沼俊一

古社寺をはじめとする日本の古建築を実地に調査し、建築史研究の発展に大きく貢献した建築史家です。



写真 1 大阪城天守閣外観（南東より）



写真 2 大阪城天守閣遠景外観（南西から）